

## 地方通信



### 東北地方

#### 秋田縣下須川橋の竣工

秋田縣雄勝郡須川村と小野村をつなぐ國

道五號線の須川橋は工費十五萬圓を以て客  
歳六月着工以來施工中の處此程竣工を告げ  
た、該橋は延長一七〇メートル二〇、幅員  
六メートルの鐵筋コンクリートゲルバー式

のモダン橋兩橋で畔の道路カーブも直線となつて居り毒水を放流する高松川に架橋されてゐる關係からコンクリートの腐蝕を防止するためコンクリートの橋脚の上を更に

#### 山形縣下加茂隧道工事

山形縣下縣道鶴岡加茂線加茂トンネルの

木安蘇郡冰室村消防組は去る一日の洪

水で決済或は流失した道路を當時人だけが漸く通行出来る程度に手を加へて置いたが

#### 栃木縣下道路復舊工事

##### の奉仕

### 關東地方

藩祖政宗公時代から青葉城と市街を結ぶ  
要衝として三百年來仙臺開發に大きな役割  
を持つた廣瀬川の大橋は約二十萬圓の工費  
を費し近代式な鐵筋コンクリート拱橋とし  
て更生、竣工した。

石で疊みあげてゐるのがこの特殊橋の特長となつてゐる。

擴張工事で交通止めの影響は意外に大きく  
加茂全町始め大山町の商店鶴岡市の關係業者等は生活を脅かされるに至つたので促進期成同盟會の設置を見ることとなつた、同工事着工と同時に工費三千圓は加茂町から五百圓、大山町から五百圓を支出し改修工事を續けてゐた隧道上の副道路は面目一新、延長千八百米、幅員三米が殆ど出来上つて水產物を積むリヤカーは勿論、自動車も小型なら通行し得ようといふ見事な新道路となり、来る十五日から通行を許すから今までの不便が幾分か緩和されるだらう。

愈出来秋となり農産物や木炭、木材等林産物の輸送の活潑となる季節を控へ、この儘道路破損箇所を放置して置いたのでは水害で大打撃を蒙つた村に猶大きな損失を加える譯には行かぬと二十八日未明から總出動で物資輸送に差當り必要な幹線道路の復舊工事を敢行した。

## 東山地方

### 山梨縣下本栖線道路開通

山梨縣下吉城郡上寶村平湯から長野縣南安曇郡安曇村を結ぶ安房峠隧道即ち平湯中の歲月と二十餘萬圓の巨費を投じ施工開通したもので大山岳道路として景勝百パーセントの路線、峰に湧く白雲、白樺と緑と紅と枯木との美妙な立體アラベスクは、他地方に觀るべからざる佳景である。十月五日盛大なる竣工式が舉行せられた。

山梨縣甲府から御坂峠を經て河口湖に至る國道八號線及び河口から本栖に至る縣道は既に坦々砥の如きドライブ・ウェイとして試験済であり、本栖、甲斐常葉を結ぶ新縣道は縣が多年の心血を注いで漸く完成の域に漕付けを責重な道路であり、この間のコースは風光明媚の定評と共に産業開發上にも大きな役割を果すものであるが、加へ

て身延線が國鐵として登場することとなりばこの環状線は一躍縣下から全國への飛躍を見ることとなり、甲府運事、各鐵局でも有望な觀光線として積極的な宣傳を用意してる。

## 日本の屋根を貫く岐阜

### 安房峠の開通

岐阜縣下吉城郡上寶村平湯から長野縣南安曇郡安曇村を結ぶ安房峠隧道即ち平湯中の歲月と二十餘萬圓の巨費を投じ施工開通したもので大山岳道路として景勝百パーセントの路線、峰に湧く白雲、白樺と緑と紅と枯木との美妙な立體アラベスクは、他地方に觀るべからざる佳景である。十月五日盛大なる竣工式が舉行せられた。

## 東海地方

### 愛知縣名古屋市の鋪裝計

## 愛知縣下道路鋪裝竹筋 コンクリートの出現

愛知縣道路課では竹筋コンクリートの研究を繼續しつゝあるの、其施設は縣道、國道など夥しい數に上る道路標の三割までを竹筋コンクリートで代用、氣を吐いてゐるが、各種試験の結果、鐵筋にはおればぬまでも普通のコンクリートの二倍の強度があり、さらにこの國策線の指標に従つてこれを道路鋪裝に當てようと十月から着工する豊橋市内の國道鋪裝工事に全國書初の試みとして使用することとなつた、中味の竹は縣内産の青竹を割つて使ひ、高價なアスファルトに比べて値段も安くそれにコンクリートの最もうんと少くて済み、しかも生命は二十年以上の確信があり、代用品といふよりもれつきとしたほんものの鋪裝材料が生み出されたわけである。

## 劃成る

大名古屋の道路鋪装は全道路面積（一千五百八萬餘平方メートル）の約二割といふ

六大都市中最下位にあるので道路改善に積極的に乗出し次の路線に鋪装を施すこととなつた。

山田新道四百二メートル△飯田街道（中

山一八事間）千八百三十五メートル△名

古屋桑名線（露橋一日置町地内舊郡道）

千四百三十メートル△築地口荒子川間

（國際飛行場道路）一千五百六十五メートル△下飯田線（彩紅橋—東京モスリン會

社間）八百メートル△今池大久手古井ノ

坂間千百五十五メートル△名高前市民病院前二百三十三メートル△流町專賣局前東

郊線圓城間千二百四十九メートル△名鐵

神宮前牛巻間七百二十メートル△押切町上島間九百十メートル△中村東大川都市計畫則武線間四百九十三メートルほか數線である。

## 三重縣下の十六橋架工に着手する

三重縣では過般の風水害で最も被害の大きかつた四日市土木出張所管内（四日市、三重、鈴鹿）の流失橋梁は三十二橋におよんだが次の十六橋梁は交通產業上から緊急を要するので換架工事に着手した。

朝明、千代田、城下、吉澤、相生（以上朝明川水系）明治、高角（以上三瀧川水系）貝家、巡見、大脇、三輪（以上内部川水系）龜三、庄野、兩尾、野登、能登野（以上鈴鹿川水系）の各橋

なほ内務省の査定前に着手する橋梁は縣下で前記十六橋と宮川關係の二橋である。

## 神戸地方水害の跡に鑑みて水害對策を講ず

阪神地方水害復興のため頭腦動員された土木學會關西支部ではさきに「對策調査委員會」を開いて、阪神水害の天災ならびに人爲的な原因に對する専門的對策を考究したが次の如き對策案を決定した。

## 近畿地方 大阪府下の國際的的道路の開設

大阪府下南河内郡町村ではヒツラード一ヶント一行の通り筋にあたる柏原、富

田林間十キロの新設産業道路のうち喜志、

富田林間約二キロのコンクリート鋪装が未完成なので府土木部富田林工營所で當日までに全コースを完成し、H・Jに記念すべき道路開きをしてもらはうと目下工事を急いでゐる、また府土木部富田林出張所でも

右の産業道路につゞく通過コース大鐵富田林驛前から奥千早まで十四キロの補公道路を連日美化清掃につとめてゐるが、沿線數ヶ町村の學童が總出で最後の清掃奉仕を行つた。

河川 河岸の断面は單獨断面で必ず開渠とし、原則的に暗渠は撤去すべきである。また河川の両側には相當の幅の道路をつくつて水防用とし、護岸は積石垣またはコンクリート擁壁で固めるべきである。

橋梁 原則として一徑間（橋桁なきもの）

いやうに、また梁下端と計畫高水位との間は一メートル以上あける必要がある。

水道 神戸上水道の送水管破裂のため大阪市水道部は直ちに工夫を派遣して復舊工

理の應援につとめたにかゝはらず神戸市民は數十日間にわたつて水飢餓に陥つたのは水道工事材料の規格が違つてゐたためであつた、今後は京阪神各市とも使用材料の規格を統一し災害時における急相互救援の完璧を期せよ。

記念標 災害の程度を後世に傳へるため各河川ごとに流れて出た瓦石や砂をもつて記念標を建設せよ、場合によつてはその費用を引受けてもいふ。

右のやうな詳細にわたる對策を決定し、近

く、内務、農林、鐵道の各關係局、神戸、西宮兩市、各町村、電鐵、水道など各關係

方面へこの對策報告書を發送じて實行方を勧告することになつた。

## 中 國 地 方

### 廣島縣下の新國道施工 の日は近づいた

### 熊本縣人吉町大橋小保

#### 橋の竣工

廣島市ではいよいよ都市計畫街十日市荒神線のうち山口町電車停留所から福屋百貨店前の電車通りを廣島憲兵隊裏から研屋町入口にいたる延長四百二十間の街道擴長事業に着手し、まづ土地買収交渉を開始することになつたが、工事實現の曉は現在八間の幅員は上流用町電車停留所以東は十二間以西は十四間の歩道、車道を併用する近代都市となり、同郷道は新に國道に指定され市中央部の面目を一新するものとして市民の待望久しきものである。なほ新國道とな

る荒神町大洲線の猿猴橋より荒神小學校南角に至る延長百五十間の街路はすでに買収を終り六間の幅員を十一間に擴張、十一月はじめごろから着工の豫定である。

## 九 州 地 方

道路の改良 第二十卷 第十一號

コンクリートなし、橋梁取付部分は小鋪石

橋梁全延長 一一六・五米

橋梁全延長 九一・四米

鋪装となせり。

上部工事 コンクリート 五九二・一立米

上部工事 コンクリート 三四・一立米

架橋地點 熊本縣球磨郡人吉町

(平米當り〇・六八立米)

(平米當り〇・五〇立米)

指定府縣道 人吉加久藤澤

鐵筋 八四・二噸

鐵筋 四九・六噸

河川 球磨川

右岸 大橋 左岸 小侯橋

下部工事 コンクリート

有効幅員 七・五米

一・三八五立米

一・三一七立米

大橋 (球磨川右岸側)

鐵筋 二五・九噸

二五・七噸

徑間割 二一・五米 三連

小侯橋 (球磨川左岸側)

二五・七噸

二四・〇米 三連

鐵筋 二六・五米 三連

二五・九噸

一九・〇米 三連

工事費 十四萬三千圓

施行方法 諸負とし、同時に施行せり。

自ら疆めて息まないとは天の道である。君子はそうするのである。舜が勉めて善を爲し、禹が毎日熱心に勤むるを思ひ、成湯が日に日に新らしく誠をつとめしこと、文王が遑のなきまで勤めしこと、周公が朝まで座つてゐた事など、孔子が發奮して食を忘れし事など皆是の自疆息まさる事である。彼の徒に靜かに座つて目を瞑つて考へて居る如きのみの事は此の學派とは反対になつて居る。(言志四錄の内)